

活動レポート

防災委員会 都市部会

文責：防災委員会 都市部会 会員 宮田 善郁

東日本大震災の教訓はいつ活かす？

第 33 回防災セミナー『東日本大震災から 10 年』

1. はじめに

防災委員会では毎年、最新トピックをテーマとした防災セミナーを開催しております。今回の防災セミナーは、『東日本大震災から 10 年』をテーマに、発災時、岩手河川国道事務所長として陣頭指揮にあたられた今氏、被災地を繰り返し訪れて復旧・復興の過程をつぶさに観察してきた宮川氏のお二方を講師にお招きして開催しました。

開催方法は、前回に引き続きオンライン開催でした。長引くコロナ禍のため、主催者側も参加者側もオンラインでの開催にだいた慣れ、大きなトラブルなく終わることができました。



写真-1 主催者挨拶 城戸委員長

2. 講演概要

未曾有の大災害、『東日本大震災』から 10 年経過した今だからこそわかったこと・伝えたいことを今氏より行政・学識者の視点で、宮川氏より技術者の視点でご講演頂きました。異なる視点から東日本大震災を振り返って頂いたわけですが、共通していたのは『災害教訓を学ぶことの大切さ』でした。

講演 1：『地域防災力の強化～東日本大震災から 10 年を迎えて～』 今 日出人 氏

今氏は、発災当時、岩手河川国道事務所の事務所長を務めていたことから、発災直後の生々しい災害対応の様子をお話くださいました。また、これを踏まえた地域防災力の強化策についてご教授くださいました。特に、印象深かったお言葉を紹介します。

①他地域の災害教訓を自分の地域に活かすこと

自分自身が大規模災害を実際に経験する確率は低く、また、経験してから備えても“時すでに遅し”です。他地域で災害が発生する度にその対応の良かった点・悪かった点を学び、これを自分の地域の防災力強化に活かすことが大事であると学びました。

— 第 33 回防災セミナー 開催概要 —

日時：令和 3 年 10 月 20 日(水曜日)

14：00～16：45

会場：オンライン開催(Zoom)

参加：57 名

次第：

- 1) 開 会 主催者挨拶 城戸委員長
- 2) 講演 1『地域防災力の強化～東日本大震災から 10 年を迎えて～』
北海道大学客員教授/株式会社ドーコン
専務執行役員 今 日出人 氏
- 3) 講演 2『ある技術者の活動記録より
～その地を歩き続け、その地へ思いを馳(は)せる～』
株式会社イズム・グリーン執行役員
防災委員会都市部会員 宮川 隆雄 氏
- 4) 質疑応答
- 5) 閉 会

②地域の持続性確保には復興スピードが大事

市街地復興が完了したにも関わらず、遠方避難していた住民が戻らず、人口が大幅に減少してしまった地域が多数あるとのこと。ひとたび人口が減少すると回復させることは難しいため、地域の産業や文化を守るためにはスピーディな復旧・復興が重要であると学びました。また、このための解決策として、復興計画を事前策定しておくことが有効であると学びました。

③地域防災力を担う建設業者の確保・育成が大事

いざ、大規模災害が発生した際には、発災直後の道路啓開から復旧・復興に至るまで地元の建設業者の存在が不可欠です。このため、地元建設業者への発注形態の見直し等を行い、持続可能な事業環境を確保することが大事と学びました。



写真-2 今氏による講演状況(講演 1)

講演 2：『ある技術者の活動記録より』宮川 隆雄氏

東日本大震災の被災地は、明治三陸地震(1896年)や昭和三陸地震(1933年)でも大きな津波被害を受けており、この時の教訓を活かして各地で津波被害を防止・軽減するための取組がなされておりました。宮川氏からは、過去の津波被害の教訓が東日本大震災の際にどのように活かされていたかに着目して現地視察の結果をご紹介します。

例えば、普代村は最大規模の津波高に耐えうる水門・防潮堤により、宮古市田老は「万里の長城」と称される長大防潮堤により多くの人命・財産が救われました(ハード対策)。また、釜石市では「釜石の奇跡」と呼ばれる防災教育が人的被害軽減に大きく寄

与しました(ソフト対策)。

このようなハード・ソフト対策が奏功した事例とともに、対策してあったにも関わらず多数の人的被害が発生してしまった事例もご紹介いただき、防災対策の効果と限界を学びました。

宮川氏が特に思いを込めて語っていたのは、「先人の教訓や構築した防災施設は、多くの命を救うことに間違いなく寄与していた」ということでした。被害をゼロにすることは大変難しいことですが、決してあきらめずに防災対策することの大切さを痛感しました。



写真-3 宮川氏による講演状況(講演 2)

3. おわりに

つい先日(R3.12.21)、内閣府より「日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震」が発生した場合の被害想定が公表されました。冬期・深夜に発災した場合の死者数は約 20 万人とのこと。一人でも多くの人命を救うため、技術士会北海道本部が中心となって地域防災力強化を益々、加速させましょう。

“東日本大震災の教訓はいつ活かす？ ^{いま}今でしょう”



写真-4 講演者・主催者・事務局での記念撮影